

(様式1)

令和2年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案

(整理番号) 91	提案機関名 一般財団法人神奈川県内水面漁業振興会
要望問題名 短期継代種苗の安定生産に資する研究の推進について	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 アユ種苗生産業務は、短期継代種苗の導入により種苗性の向上は評価されているものの、安定生産の観点では未だ十分といえる状況には至っていない。中でも、生産開始初期の減耗が顕著で、初期の生産技術の見直しが必要となっている。 については、冷凍コペポータを含む餌料系列の見直し、餌料生物に対する栄養強化などの飼育管理技術の改良に取り組んでいただきたい。	
解決希望年限	① 1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ② 2～3年以内 ③ 4～5年以内 ④ 5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター ②畜産技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。(提案者は、以下記載不要)

回答機関名	水産技術センター	担当部所	内水面試験場
対応区分	①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 <input checked="" type="checkbox"/> ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合)		
対応の内容等	アユの初期減耗は主に、卵質、飼育水の管理、初期生物餌料の安定化、疾病が主な原因と考えられますが、餌料系列については全国的にほぼ同様に、生物餌料（ワムシ、アルテミア幼生、ミジンコ類）から開始し、成長とともに配合飼料へ移行していく形となっています。さらに近年では、微粒子配合飼料の開発により、ミジンコ類は使わず、さらにアルテミア幼生も使わない場合も増えており、餌料系列は確立していると考えています。このことから、生物餌料の栄養強化やその他飼育管理技術について、全国的な生産技術情報等の把握に努めるとともに、現地において助言等を行ってまいります。		
解決予定年限	① 1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ② 2～3年以内 ③ 4～5年以内 ④ 5～10年以内		
備考			